

第5回アジア臨床工学フォーラム開催報告

大阪滋慶学園 常務理事 橋本勝信

大阪ハイテクノロジー専門学校 局次長 織田豊

AI (artificial intelligence) や ICT(Information and Communication Technology)技術など科学技術の進歩に伴い、医療、福祉の現場も大きく変化し、とりわけ臨床工学の分野は医療機器の進歩が激しく、高度化、複雑化しています。スペシャリストとしての臨床工学技士の職域は広がり、アジアの急速な高齢化の中、その存在は益々重要になってまいりました。

第5回目となる今回は2021年11月6日(土)に「アジア臨床工学の“情報科学発展と医療安全への貢献”」をテーマに、新大阪ワシントンホテルプラザを主会場として各国とオンラインで開催いたしました。

同フォーラムは、日本で初めて「医療の安全」を探求する大学院である滋慶医療科学大学院大学(現、滋慶医療科学大学大学院)の開設を記念し、2012年4月に第1回目を開催。以来、中国での2度の開催と2019年11月の東京開催を経て、今回、医療科学部臨床工学科をもつ滋慶医療科学大学の開学を記念して開催しました。

主催は学校法人大阪滋慶学園と滋慶医療科学大学・同大学院、アジア職業人材養成センターで、中国医師協会と中華医学会、広東医科大学、上海中醫藥大学、上海健康医学院、深圳職業技術学院、広東薬科大学が共催、文部科学省や大阪府、公益社団法人日本臨床工学技士会様、一般財団法人臨床工学国際推進財団様など15団体の後援を頂きました。

当日は日本と中国をはじめ、バングラデシュ、ネパール、タイ、ミャンマー、台湾の7か国・地域の臨床工学関係者や学生らが会場とオンラインに別れて参加。5人の先生方による講演と、各国代表が参加するパネルディスカッションと2つのシンポジウムが行われました。

講演では、日本の先生方から、臨床工学技士法が30数年ぶりに改正され、10月からの施行によって、これまで医師がおこなっていた臨床業務の一部を臨床工学技士が引き受けることになったことや、コロナ下でのECMO(エクモ)の操作など臨床工学技士の存在感が高まったこと、アジアに向けて医療機器に関する支援や臨床工学人材の育成支援に乗り出しているが、コロナのために、一時中断を余儀なくされている状況などが報告されました。

一般財団法人臨床工学国際推進財団の理事長川崎忠行様からは「アジア臨床工学のグローバル化と医療安全への貢献」をテーマに以下の内容で特別講演いただきました。

「2015年、世界で初めて11カ国から参加して臨床工学の国際学会が中国・広州で開かれた。日本の臨床工学技士会も参加し、国家試験として存在する組織は日本が世界で唯一だと紹介した。診療報酬がつくなど技術評価もきちんとしている点で、アメリカの先生方からも注目された。

臨床工学技士会に国際交流委員会を作って、AAMI（米国の学会）での発表や中国工程師会との連携、透析液清浄化に関する国際標準化機構(ISO)会議への参加などを経て、臨床工学国際推進財団を設立。世界に唯一の日本の臨床工学制度やチーム医療について世界に普及活動を続けている。

中国とは血液浄化技術交流、ミャンマーなど新興国への臨床工学人材の育成支援なども行っている。2018年から5年間の予定で、国立ヤンゴン医療技術大学でJICAとともにメディカルエンジニア育成体制強化プロジェクトを実施。このほか、インドネシアやフィリピン（マグサイサイ大学）でも人材育成に取り組んでいる。

途上国ではマンパワーが不足し、かつ日本の医療機器の評判がいい。メーカーごとに対応してきたが、対応に差があるため、途上国に日本のメーカー複数社で医療機器センターを作り、人材育成を臨床工学技士会、財団で調整する案を経産省に提案している。その国の大学にシラバスやカリキュラムを提供、日本人講師や先生を派遣する形も提案している。現在はコロナで止まっているが、グローバル化のなかで、臨床工学技士が医療の安全安心に寄与することは間違いない。それをいかに進めるか、臨床工学技士会と推進財団の役割だと考えている。」

中国からは、情報工学をとり入れた臨床工学の発展や、大学での人材育成への取り組みなどが紹介され、「新型コロナで臨床工学技士が活躍し、注目された」、「医療機器の開発などができるイノベーション力のある臨床工学技士の育成に取り組んでいる」といった報告もありました。

またシンポジウムやフォーラムでは、コロナ禍の中、参加各国に於ける臨床工学の現状や課題、将来展望などが報告されました。ミャンマーやバングラデシュなど途上国からは、まだまだ未整備な状態にある臨床工学をいかに確立していくか努力している姿や、急激な透析患者の増加や医療機器の不足・不備に加えて、臨床工学人材が不足するなど、コロナ下で厳しい状況にあることなどが報告され、日本の臨床工学に協力の強化を求める切実な声が寄せられました。

今後も、日本とアジアにおける臨床工学の技術と発展、人材の相互交流に貢献していきたいと考えております。

アジア臨床工学フォーラム

The forum for Asian Clinical Engineering

Since 2012



第1回
2012年4月
大阪開催

第2回
2016年9月
上海開催

第3回
2018年5月
上海開催

第4回
2019年11月
東京開催

第5回
2021年11月
大阪開催

